

フェージングシミュレータ

4409A

概要

本装置は、マルチシステムデジタル信号発生器シリーズ(3511B・3513B・3519A)と組み合わせて使用する、放送波用のローコストのフェージングシミュレータです。パス数は最大40パスを有し、3GPP規格の20パスモデルのプロファイルと、それ以上のパス数に対応できます(20パスモデルと40パスモデルを選択できます)。更にC/N設定用にノイズ発生器を内蔵し、フェージング処理後の信号にノイズを重畳することができます。

また、中心周波数36～44MHz(帯域幅:8MHz)の信号を本装置のIF INPUT端子に入力して使用することができます。

フェージング:受信点での電界強度が伝搬路の状態変化により時々刻々変化する現象を言います。



本体……………1
 425(W)×88(H)×480(D) mm 質量 7Kg
 付属品 電源ケーブル(3ピン 2ピン変換含む)……………1
 取扱説明書……………1
 電源 入力電圧許容範囲:AC90V～AC250V(50Hz/60Hz)
 消費電力:約55VA
 使用環境 温度:+0～+45 湿度:90%RH以下(結露のないこと)

特長

・3GPP規格に必要なパス数を実現

フェージングパス数は最大40パスを有し、3GPP規格の20パスモデルのプロファイルと、それ以上のパス数にも対応できます。(20パスモデルと40パスモデルを選択できます)

・小型・軽量化を実現

高さを2Uサイズに抑え、小型・軽量化を実現しました。

・スタンドアロンで使用可能

小型ながらも専用キー、テンキ - を実装、表示は40文字4行の蛍光表示管を採用し、スタンドアロンオペレーションが可能です。

・マルチシステムデジタル信号発生器と容易に接続

入力 IF 中心周波数は、36～44MHz(10kHz ステップ)、出力 IF 中心周波数は 44MHz 及び 37.15MHz です。弊社製マルチシステムデジタル信号発生器シリーズ(3511B・3513B・3519A)と容易に接続できます。

・世界の地上デジタル放送波に対応可能

DVB-T/H、ATSC、ISDB-T、DMB-T、ADTB-T等の全ての地上デジタル放送信号を処理することができます。

・スタティックパス設定

各パスの絶対遅延量は±1ms(最小遅延分解能1ns)、位相設定は±180°(最小分解能1°)、減衰量は0～50dB(最小分解能0.1dB)です。

・全パスでレーリ波の出力が可能

40パス全てでレーリ波を実現できます。また、ドップラ周波数は1Hz～2000Hz(最小分解能0.01Hz)で設定できます。

・ノイズ発生器を内蔵

ノイズ発生器を内蔵しています。C/N設定範囲は0～40dB(最小分解能0.1dB)です。

・リモートコントロールが可能

標準装備のGP-IB(IEEE-488.2)によるリモートコントロールができます。またオプションでETHERNET(10Base-T/100Base-TX)によるリモート制御ができます。

形式表

形式	パス数	リモートインターフェイス
4409A-201	20	GP-IB
4409A-202		GP-IB & 10Base-T/100Base-Tx
4409A-401	40	GP-IB
4409A-402		GP-IB & 10Base-T/100Base-Tx